

ウェブサイトはこちら!

福島第一原子力発電所で働く  
みなさんへのお知らせ

2018年

1

月



## 月刊 いちえふ。

## 増田CDO※、内田所長からのメッセージ

新年あけましておめでとうございます。

年末年始も作業に携わっていただきましたみなさん、本当にありがとうございました。

今年は震災後7回目のお正月となりましたが、昨年の1Fは「いよいよ廃炉の核心となる作業が始まった」という手ごたえをつかんだ年であったと感じており、みなさんの日ごろの努力に重ねて御礼申し上げます。

昨年8月以降、サブドレンに関するトラブルなどをいくつか連続して起こし、周辺地域のみなさまをはじめ、広く社会のみなさまにご心配をおかけしてしまいました。私たちは、帰還や復興が進む中で、地元の方々に安心してお戻りいただけるように1Fを安定させること、そして1Fで起きていることを「伝える」のではなく、「伝わる」ように工夫することが重要であると考えています。

今年は、いよいよ廃炉の核心に近づく仕事が増えてきます。まず今月から2号機の格納容器の中へカメラを投入して格納容器底部の調査を実施します。昨年の調査の経験も踏まえて色々改善も図っています。また、3号機では今年の中盤から使用済燃料プールより燃料取り出しに着手します。そのためのカバー設置も2月に完了する予定です。

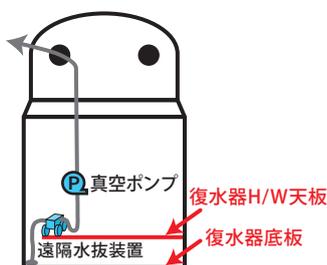
私たちは、1Fで働く6000人が心をひとつにして誇りを持って廃炉に取り組むことこそが、廃炉を安全に進めることができる道であると確信しています。これから30年40年にわたってみなさんが安全、安心して働ける「普通の現場」になるように、作業環境の改善と基礎基盤の整備も継続して進めていきます。1Fの廃炉を安全着実に進め、明るく楽しい職場となるように力を合わせて頑張りましょう。

今年もよろしくお願いたします。ご安全に!



※CDO: Chief Decommissioning Officer (廃炉・汚染水対策最高責任者)

## いちえふのいま

1～3号機復水器からの  
水抜きを完了しました

1～3号機の復水器※には、放射能濃度の高い事故当時の建屋滞留水を貯めていましたが、最後に残った3号機復水器からの水抜き作業を12月15日に完了しました。引き続き、2020年内の建屋滞留水処理完了に向けて、作業を進めます。

※ 復水器: 蒸気タービンをまわした蒸気を、冷却水との熱交換によって冷却凝縮し、水に戻すための装置



## 和気あいあいとした雰囲気 無事に工事を進める秘訣

震災前、5号機と6号機原子炉建屋近くの車両を通すために開け閉めするゲート（門）は電動でした。震災以後は手動で操作していましたが、それを再び電気で動かすための工事が2017年3月に始まり、10月末に完了しています。今回は、その工事を担当した倉伸のみなさんにお話をうかがいました。

### 震災で中断してしまった工事を 自分たちの手で完成できた



—— 震災直前にも同じような工事を  
していたとうかがいました。

梅田さん：今回、再び工事に携わることができ、私たちの手で完成できたのは喜ばしいと感じています。

—— お仕事で難しかった点はありますか。

鈴木さん：このあたりは交通量が多く、特に大型バスがこのゲートを通っていくので、事故が起きないように集中しました。

## Message

地元の企業として、復興に向けて努力していきます。みなさん力を合わせて頑張りましょう。



(写真左から)

うめだ よしひろ 梅田 義弘さん	ながい まさひこ 永井 正彦さん	おかもと みのる 岡本 実さん
わたなべ ゆきお 渡部 幸雄さん	みつつか つかさ 三塚 司さん	すずき まさお 鈴木 正郎さん



倉伸 福島事業所のメンバー

三塚さん：夏場の作業では熱中症にならないよう、車の中で冷房をかけ、防護服のまま交代で涼むようにしました。

—— どんなときに仕事のやりがいを感じましたか。

永井さん：事故なく計画どおりに工事が終わったときは、充実感がありました。工事完了後に担当の方の笑顔を見たときは、うれしかったですね。

渡部さん：この場所を通る際、ゲートがきちんと動いているのを見ると、自分たちがやったんだと、しみじみと感じます。

—— 無事に終わることができた秘訣はどこにありますか。

岡本さん：和気あいあいとした雰囲気があり、それが無事故の秘訣だと思います。誰かが具合が悪くなって休憩をとったら、「うまいことやったな」と冗談を言って笑えるような仲間です。

### つと お勤め先

#### 株式会社 倉伸

土木工事を中心に地元に着目した業務を行っている。1Fでは工事関係の30人を中心に、約60人が働いている。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください  
URL: <https://1f-all.jp/interview/43/>

# 44 五洋建設 東電福島工事事業所のみなさん



## きび 厳しいルールでの仕事がいい経験になっている

東日本大震災<sup>しんさい</sup>の前から、5、6号機の北側にある海岸で、波による浸食<sup>しんしょく</sup>（陸地<sup>りくち</sup>が削り取られること）が進んでいました。このままでは岸辺が崩れて危険なため、波から陸地を守るための護岸をつくる工事が進められています。今回は、その仕事にあっている五洋建設のみなさんにお話をうかがいました。

### 1Fの構外でありながら 放射線管理区域内という現場



—— 護岸について教えてください。

前岡さん：護岸の形については、室内<sup>もけい</sup>で模型を使って何度も実験をして決めました。海側には、石を袋詰めにした1つ4トンの籠<sup>かご</sup>を置き、工事用道路は捨石<sup>すていし</sup>で形成します。その陸側にブロックを2段積み、石の籠やブロックで波の力を弱めることができるので、陸地が浸食<sup>しんしょく</sup>されることはありません。

—— お仕事で難しいことはありましたか。

七理さん：工事に使う120トンクレーンをはじめ、生コン車などを現場にどう入れるかが問題でした。現場は1Fの構外<sup>ほうしゃせんかんりくいきない</sup>でありながら、放射線管理区域内という場所だったからです。1F構内と現場を結ぶ道路をつくるには、防護フェンスを



休日はみんなでゴルフを楽しんでいる

## メッセージ

東電福島<sup>わす</sup>の復興を目指し、初心を忘れず笑顔と一体感を持って頑張りましょう。



(写真左から)

しちり やすお  
七理 康男さん

まえおか ゆうた  
前岡 裕太さん

越えなくてはなりません。フェンスを9メートル分取り外して、そこに扉<sup>とびら</sup>を取り付けることにしたのです。

—— 仕事のやりがいを感じるの是什么时候ですか。

七理さん：震災直後から1Fで働いています。当時はJビレッジから全面マスクと防護服で、線量計はグループに1つと本当に大変でした。使命感でここまでやってこれたと思います。

前岡さん：工事がだんだんと進んでいき、はっきりとした形になってくるのを見ると「ああ、ここまで来たんだ」と感じます。形あるものを残していけるのがやりがいですね。

### つと お勤め先

#### 五洋建設株式会社

1896年創業。海洋土木を中心に、様々な工事に関わっている。1Fでは、社員10人、協力会社を含めると約35人が働いている。

● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください  
URL: <https://1f-all.jp/interview/44/>

操作時など、要所所で指差呼称をすることで意識レベルが向上し、確認の精度が向上します。焦っているときなど意識が過剰な状態でも、立ち止まることで気を静めることができます。しっかりと声に出して行いましょう。

1【指を差し】

呼称項目を「○○」と唱えながら腕を伸ばし、人差し指で対象を指差し対象をしっかりと見ます。



2【耳元へ】

腕を耳元まで振り上げながら、本当によいかを考え、確かめます。



3【振り下ろす】

確認できたら「ヨシ！」と唱えながら確認対象に向かって腕を振り下ろします。



今月はまちがい探しです。「いわきサンシャインマラソン」の絵が2つ。まちがいが何個あるかわかりますか？

■第9回 いわきサンシャインマラソン 2018年2月11日(日)開催



▶ 応募方法・プレゼントのお受け取り方法

正解した方の中から抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

入退域管理棟、福島第一登録窓口通用口にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間 1月19日～2月2日

- \*応募用紙は応募箱横に設置しています。
- \*当選者の発表はプレゼントの発送もってかえさせていただきます。
- \*答えはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」新着情報で発表します。

▶ 今号のプレゼント

東北名産の詰め合わせです。

※賞品は写真と異なる場合がございます

